

講義名	国際関係論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	村上 友章		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	
	2018年度 経済学部 経済情報学科 情報システムコース/2018年度 経済学部 経済情報学科 経済情報コース /2018年度 経済学部 経済情報学科 2018年度 経済学部 経済学科 地域まちづくりコース/2018年度 経済学部 経済学科 現代経済コース/2018年度 経済学部 経済学科/		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>・この授業では、三つのパートにそって講義を進めていく。第一部「国際関係の理論」では、国際関係学に関わる代表的な三つの理論群について紹介・説明する。第二部「国際関係の歴史」では、近代以降の国際関係の歴史を概観しながら、それらの理論が、歴史的な現実をたいしてどのようにアプローチし、またどのような理論的發展を遂げてきたのかを解説していく。最後に第三部では、今日の国際社会が直面している政治的・経済的諸問題について考察する。</p> <p>・ただし、本授業は当面の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。そのため、授業内容も若干、修正していく予定である。ポータルをよく確認すること。</p>

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 国際関係学の代表的な理論を学ぶことで、国際関係を動かすメカニズムや要因についてのさまざまな見方を理解すること。 国際関係の歴史についての基本的な知識を習得すること。 現代の国際社会が直面するさまざまな問題について正確な知識をもって理解し、その解決策について自分なりの見解を説明することができるようになること。

提出課題
<ul style="list-style-type: none"> 基本的に毎回、予習として教科書の該当箇所を読み、あらかじめ指示された問題を解き、それらを「読書シート」にまとめて提出する。 ただし、本授業は当面の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間の課題のあり方についてはポータルにアップする予定の資料を参照すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<ul style="list-style-type: none"> 冒頭に、予習で取り組んだ問題に基づく小テストを行い、授業中に解説を行う。 ただし、本授業は当面の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間のフィードバックのあり方についてはポータルにアップする予定の資料を参照すること。

評価の基準
<ul style="list-style-type: none"> 評価は、小テスト（60％）と期末レポート（40％）を合算して行なう。教科書および講義で説明された内容が正確に理解できているかどうか、そのうえで自分なりの立場や見解が論理的に説明できているかどうか、評価の基準となる。 ただし、本授業は当面の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間の評価のあり方についてはポータルにアップする予定の資料を参照すること。

履修にあたっての注意・助言他
<ul style="list-style-type: none"> 授業内で小テストを行うので、予習（「読書シート」への記載等）は必ず行って参加することになる。 ただし、本授業は当面の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間の注意・助言についてはポータルに適宜アップする予定なので、よく確認すること。

教科書
<ul style="list-style-type: none"> 戦争の条件。藤原帰一 集英社 880 978-4087206869 地図で読む「国際関係」入門。眞淳平 筑摩書房 990 978-4480689436

プリント資料及び参考文献
<ul style="list-style-type: none"> 授業中に紹介・配布 ただし、本授業は当面の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間は資料等はポータルにアップする予定。

授業計画
<p>（国際関係の理論）</p> <p>第1回：イントロダクションー領土問題から見えてくる国際関係</p> <p>第2回：リアリズムと「力の均衡」論</p> <p>第3回：相互依存と多元主義</p> <p>第4回：帝国主義と世界システム論</p> <p>（国際関係の歴史）</p> <p>第5回：主権国家と国家間システムの成立</p> <p>第6回：ハクス・ブリタニカの時代ー自由貿易の帝国主義</p> <p>第7回：列強帝国主義による世界の分割</p> <p>第8回：一つの世界大戦から冷戦へ</p> <p>第9回：核抑止論と「長い平和」</p> <p>第10回：第三世界の諸問題ー低開発と「熱い戦争」</p> <p>第11回：アメリカの衰退とそれをめぐる論争</p> <p>第12回：グローバリゼーションと冷戦の終焉</p> <p>（現代国際政治の諸問題）</p> <p>第13回：地域の統合と「主権」概念の変容</p> <p>第14回：現代の戦争ー資源紛争と対テロ戦争</p> <p>第15回：グローバリゼーションのなかでの貧困問題</p> <p>定期試験</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<ul style="list-style-type: none"> 提出課題の作成に2時間、復習に1時間を当てることとする。 ただし、本授業は当面の間、オンラインの「課題学修型授業」で行われる。その間は、授業時間（90分）も含めて課題作成等に努めること。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
<ul style="list-style-type: none"> 履修生のリクエスト等に応じて、授業計画は柔軟に変更することもありうる。